



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

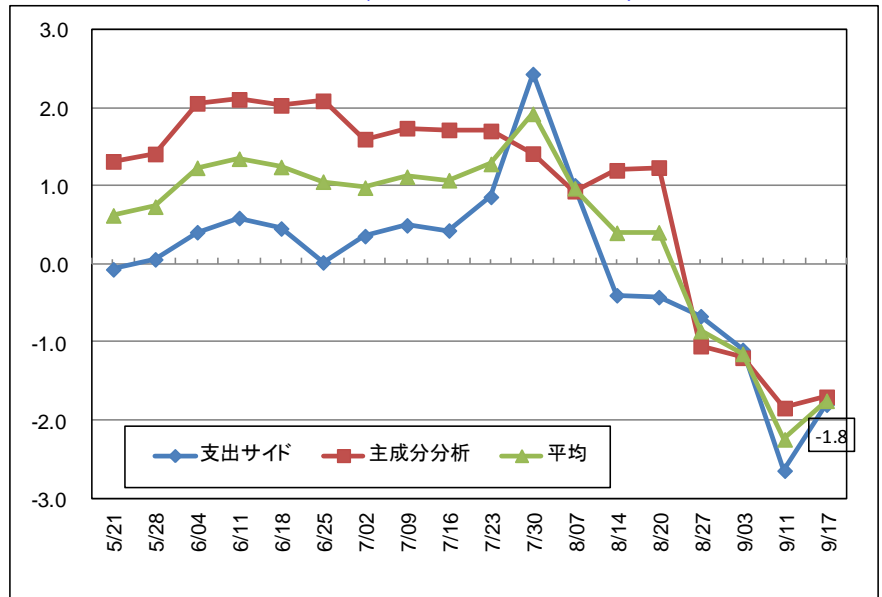
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年9月17日)

ポイント

- ▶今週(9/17)の予測では、8月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、7月の鉱工業生産指数(確報値)、第3次産業活動指数及び民間機械受注が更新された。
- ▶これらのデータは、民間企業設備、民間企業在庫品増減、政府最終消費支出、純輸出の予測値に影響する。
- ▶民間企業設備投資の先行指標であるコア機械受注は、7月に前月比+4.6%増加した。2ヵ月連続のプラス。7月実績は4-6月期平均比+2.6%高い水準であり、7-9月期のスタートとしては幸先がよい。
- ▶今週のCQM(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を、内需と純輸出がともに縮小するため前期比年率-1.8%と予測する。先週の予測値(-2.6%)から上方修正。
- ▶CQM予測は一旦底打ちしたが6週連続のマイナス成長。民間最終消費支出、民間企業設備、輸出と主要なエンジンがいずれもが前期比マイナス。景気の下振れが進んでいる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%，前期比年率換算)



<7-9月期の日本経済は、民間最終消費支出、民間企業設備、輸出と主要なエンジンが前期比マイナス>

今週(9/17)の予測では、8月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、7月の鉱工業生産指数(確報値)、第3次産業活動指数及び民間機械受注が更新された。これらのデータは、民間企業設備、民間企業在庫品増減、政府最終消費支出、純輸出の予測値に影響を及ぼす。

民間企業設備投資の先行指標であるコア機械受注は、7月に前月比+4.6%増加した。2ヵ月連続のプラス。7月実績は4-6月期平均比+2.6%高い水準となった。一方、内閣府の予測調査によると、7-9月期のコア機械受注は前期-1.2%と2期連続のマイナス成長となっていることからすれば、7月実績は同期のスタートとしては幸先がよい。

8月の国内企業物価指数は前月比+0.3%と4ヵ月ぶりのプラスとなったが、前年同月比は-1.8%と5ヵ月連続のマイナス。同月の輸出物価指数は前年同月比-2.6%低下し、30ヵ月連続のマイナス。輸入物価指数も同-3.8%低下し、4ヵ月連続のマイナスとなった。この結果、交易条件指数は前年同月差+1.1ポイントとなり、2ヵ月連続で改善した。

新たな月次指標を更新した今週のCQM(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を、内需と純輸出がともに縮小するため前期比-0.5%、同年率-1.8%と予測する。先週の予測値(-2.6%)からは上方修正であり、民間企業設備、民間企業在庫品増減、政府最終消費支出、純輸出の予測値がいずれも小幅上方修正された結果である。CQM予測は一旦底打ちしたものの6週連続でマイナス成長を予測している。GDP構成項目をみれば、7-9月期の日本経済は、民間最終消費支出、民間企業設備、輸出と主要なエンジンがいずれも前期比マイナスであり、予想を超えて景気の下振れが進んでいる。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550